

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【小学校】

【学校名等】

学校名	向日市立第6向陽小学校							校長名	岸本 啓司
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	333 名
学級数	2	2	2	2	2	2	3		
事業担当教員名	秀真 修司								
① 中学校区で目指す子ども像	・人とつながりながら、生涯にわたって主体的に学び続ける子ども ・自ら見つけた課題について、探究的に深く学び解決できる子ども								
② 目指す子ども像	～学びいきいき 心いきいき 体いきいき 6向っ子～ ○ 知的好奇心旺盛で、自ら学び、豊かに表現する子 ○ 人間性豊かで、思いやりを持って協力しあえる子 ○ 運動・遊び・健康づくりに励む子								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	受け身の学習になりがちな児童が多く、 主体的に学ぼうとする意欲が低い。								
④ 目指す子ども像に達するための仮説	ICT を効果的に活用し、児童が身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を援用する学習活動やその成果を踏まえた探究活動を行うことで、主体的に学び、新たな価値を生み出せる児童が育つのではないか。								

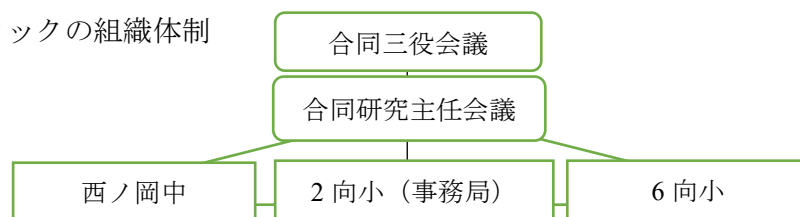
令和6年5月1日現在

【1 研究主題】

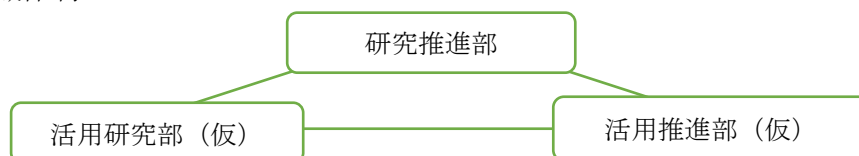
「人とのつながりを通して主体的に学び、新たな価値を生み出すことのできる子ども」の育成

【2 研究組織体制】

(1) 中学校ブロックの組織体制



(2) 校内の組織体制



【3 研究計画・具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	
5 月	
6 月	6 月下旬*西中ブロック研究会
7 月	
8 月	8 月上旬*学びのパスポート結果返却、第 1 回分析・活用研修会 8 月下旬*西中ブロック研究会
9 月	
10 月	10 月上旬*第 2 回分析・活用研修会
11 月	
12 月	
1 月	*研究校交流会 (予定)
2 月	
3 月	

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
4~6	35	わからないところがあると本やインターネット、テレビなどをみたり人に聞いたりして調べる。	学びに対する積極性	
4~6	39	「不思議だな」、「もっと知りたいな」と思うことがよくある。	好奇心	
4~6	78	国語（算数・英語）の授業では、自分で疑問に思ったことを自分自身で調べたり、他の人に聞いたりする機会がある。	主対深	

* 5・6の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法

- ・ Which 型学習課題（「A・B どちらだろう？」や「A～D のうち、どれがいいだろう？」など）を設定し、児童が「選ぶ」場を設定することで、まずは 1 人 1 人が自分の考えをもてるような工夫を授業の中で取り入れる。

集団としての具体的な指導・支援方法

< 4～6 年生 >

- ・ 普段の学習活動の中でやっていることの中で、「自己調整」や「学びに対する積極性」、「好奇心」などの概念を意識して価値付けしていく。
- ・ 日々の学習活動で、児童が主体的に学習に向かう場を意識的につくっていく。
- ・ 学級活動、児童会活動、授業等、様々な場面で児童同士が試行錯誤しながら、問題解決を図るような場面をつくり、思考力を養う。

【8 仮説の修正】

(修正前)

ICT を効果的に活用し、児童が身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を援用する学習活動やその成果を踏まえた探究活動を行うことで、主体的に学び、新たな価値を生み出せる児童が育つのではないかと。

(修正後)

探究的な学習を行い、ICT を効果的に活用することで、児童は主体的に学び、新たな価値を生み出せるのではないかと。

【9 具体的な取組内容の修正】

なし

【10 児童の変容（普段の様子から）】

- ・ 「何でだろう？」「こうすればいいかもしれない。」など、それぞれが自分の考えをもち、意欲的に問題に対して向き合うようになった。前のめりな姿勢で交流する児童が多く見られた。
- ・ 授業後の休み時間にも、黒板の前で問題について話し合っている児童の姿が見られた。

【11 2 年次の研究構想】

- ・ 探究的な学習を意識した、単元計画と授業作りの研究を継続する。特に、今年度は生活科・理科を中心に探究的な学習を進めたが、2 年次は他教科での探究的な学習の在り方を模索し、実践していく。
- ・ 児童の答えや反応に対する、教師の意味ある（より探究心が高め、学びを深めることができる）問い返しについて研究を進める。
- ・ 「学びのパスポート」がより身近になるように、年度初めはもちろん、年度の途中に見直したり、違った角度から分析検討したりして、あらゆる場面で活用する。